

ま え が き

学校長 上 田 穰 一

本校の研究紀要「高校教育研究」もついに第50号を刊行する運びになりました。前年度の本校の創立50周年を考えあわせるとき、これまでの本誌の歩みを思わずにはられません。

本校は昭和22年創設された金沢高等師範学校附属中学校を前身とします。昭和23年、新学制により金沢高等師範学校附属高等学校が設置され、昭和24年金沢大学金沢高等師範学校附属高等学校への校名変更を経て、昭和27年現在の金沢大学教育学部附属高等学校となりました。本誌は、このようにめまぐるしく変化した時代、昭和26年に金沢大学金沢高等師範学校附属高等学校内高校教育研究会の機関誌「高校教育研究」として創刊されました。

創刊号の巻頭には、本校が実験学校としての使命達成および高校教育への限りない探究とその実践を目指して歩むこと、そしてその歩みと共にそれらの研究成果を掲載する本誌が年とともに成長し、将来高校教育界に有意義な役割を果たす機関誌として成育するよとの、強い期待が込められています。冊子はA-5版であり、第1号から第7号までは主として本校主催「高校教育研究協議会」の研究成果が、教科書の在り方特集（第1号）、各科学習指導特集（第4号）、教育課程検討（第6号）などのように、特集の形で掲載されています。

第8号（昭和32年）からは、教官の個人研究の成果が加わり、B-5版の新たなる冊子のもと、研究紀要としての色彩を次第に強めました。度重なる教育改革の都度、それらに柔軟に速やかに応えるべく、理想の高校教育を目指した研究報告が連なっています。本校はともすれば受験準備に重きを置いた教育方針を持つ学校と見られがちですが、そうではなくて、一貫して生徒の円満な人間形成に、また健全な高校教育を遂行することに大いなるエネルギーを注ぎ続けている学校であって、そのことの一端を、これら研究紀要から汲み取ることができると思います。

本誌が現在のA-4版冊子となったのは第46号（平成6年）からです。国際化、学際化、情報化が加速され、社会が大きく進展しつつある現在、この趨勢に相応した本誌の版変更は良いタイミングだったと感じられます。社会に新しい進展があるとき、必ず新しい教育体制、教育内容、教育方法が要請されます。本校では逸速くこれらの要請に対応して、斬新な発想と緻密な検証に基づく検討を継続しており、その成果は本誌に随時発表掲載されています。

今回刊行します第50号を一つの区切りとして、ここまで号を重ねることができましたことに深く感謝するとともに、今後「高校教育研究」をインパクトファクターの高い研究紀要へと成長させるために関係各方面の諸先生方からこれまで以上のご指導、ご助言を賜り、そして本誌の内容が、新しい時代に相応しい新しい高校教育の制度と内容を検討する上での、活発な情報交換並びに研究交流等の一助となればこの上ない幸せであります。

最後に、多端な学校業務を担う中、地道に研究を継続され本号に執筆投稿された諸先生方の労に敬意を表します。